

2019年4月24日
 一般社団法人民間活力開発機構
 江崎グリコ株式会社

「道の駅」を拠点とした防災の取り組み 『赤ちゃん防災・道の駅プロジェクト』を始動

～ 第一号として、熊本地震で甚大な被害を受けた「熊本県阿蘇市」が参画 ～

一般社団法人民間活力開発機構と江崎グリコ株式会社は、この度、国土交通省による「子育て応援取組方針」の子育て応援施設としての重点整備箇所である「道の駅」を拠点とした防災の取り組み『赤ちゃん防災・道の駅プロジェクト』を立ち上げ、その第一号として、熊本地震で甚大な被害を受けた「熊本県阿蘇市」が参画します。当プロジェクトは、被災時に課題となる“母子の授乳環境改善”を目的に、有事に備えて日常から活用もできる乳児用液体ミルクの備蓄や可動式個室ベビーケアルームの設置、防災啓発等を全国の「道の駅」で普及させる取り組みで、自治体・企業・団体とともに全国の「道の駅」を対象に拡大していく予定です。

■ 「道の駅」で“赤ちゃんの命を守る”プロジェクト

熊本地震から3年、東日本大震災から8年が経ち、震災を教訓とした備えが全国各所で進められています。しかし、そこにはまだ多くの課題が残っており、その一つが災害弱者である赤ちゃんと妊産婦へのケアです。母乳やミルクは赤ちゃんにとって唯一の栄養源でありながら、被災時は母乳が出なくなったり、育児用物資や清潔なお湯が入手困難になったりなど、被災時、赤ちゃんは栄養摂取の手段を絶たれる可能性があります。また被災時には授乳の際の母子のプライバシー確保も重要な課題として挙げられます。これらの解決を図るため、一般社団法人民間活力開発機構(以下、当機構)と江崎グリコ株式会社(以下、当社)が協同し、全国に広がる「道の駅」を通じた“赤ちゃんの命を守る”防災の取り組みを始動します。それが『赤ちゃん防災・道の駅プロジェクト』です。当プロジェクトは、1987年に創設し官学産連携で事業を推進してきた当機構と、日本初の乳児用液体ミルクを開発・販売した当社が主体となり、様々な企業・団体・自治体からの協力を得ながら進めます。取り組みでは、当機構が有するネットワークとノウハウを活かし、全国の「道の駅」に対し、同駅を拠点とした赤ちゃんの防災取り組みを提案します。その際、常温での長期保存が可能で、封を開けて哺乳瓶に移し替えれば赤ちゃんにすぐに飲ませることのできる当社の乳児用液体ミルク「アイクレオ赤ちゃんミルク」の備蓄・販売を行います。また併せて、被災時における授乳ノウハウなどを提供するとともに、「設置型ベビーケアルーム」の設置も行う予定です。また今後は、ソフト面でのアプローチとして、NPO などからの協力のもと、妊娠中の方や赤ちゃんを持つ父親・母親を対象とした防災プログラムなども提案する予定です。



■ 第一号参画となる「熊本県阿蘇市」

今回、熊本地震で甚大な被害を受けた「熊本県阿蘇市」が当プロジェクトに参画し、阿蘇山麓に位置する「道の駅 阿蘇」で第一号として展開します。同駅では、まずは当社の乳児用液体ミルク「アイクレオ赤ちゃんミルク」の備蓄を行います。また、本プロジェクトに賛同した Trim 株式会社(代表:長谷川裕介)が開発・運営する可動式個室ベビーケアルーム「mamaro(ママロ)」を設置し同日から稼働させます。「mamaro」は、ママが赤ちゃんをケアできる完全個室の授乳室で、折りたたんだベビーカーも持ち込み可能なため親子でゆったり利用ができ、プライバシーが確保されるため、被災時にも安心して授乳することが可能です。



■ 防災と子育ての拠点としての「道の駅」

全国で 1154 カ所が登録されている「道の駅」は、旅行者だけでなく、設置する地域にとって欠かせない存在になっています。当初の「道の駅」は、道路利用者に対する飲食やトイレなどのサービス提供、地域産業振興などが主な目的でした。しかし、現在では、道の駅そのものが目的地となり、様々なタイプの駅が全国で登場しています。そして道の駅では次のステージに向け、新たな取り組みがスタートしています。その一つが「子育て支援」と「防災」のインフラ整備です。

◀防災拠点としての「道の駅」▶

「道の駅」は、駐車場があり全体面積が広く、幹線道路に面しているため、被災者だけでなく、緊急車両や物資も集まりやすいのが特徴です。東日本大震災や熊本地震などでも防災拠点としての大きな役割を果たしました。国土交通省では、以前から避難場所や復旧拠点の防災インフラとしての機能強化を推進しており、2019 年 1 月に設立された「新『道の駅』のあり方検討会」では、その第二回検討会の中間整理案では、道の駅の防災拠点としての機能強化が改めて提言されています。

◀子育て支援としての「道の駅」▶

「道の駅」は、車での外出が増える子育て世代にとって気軽に利用できるスポットとして親しまれており、最近では、大型遊具や遊園地が併設されている施設など、家族で楽しめる場所としての広がりをみせています。国土交通省では、2018 年 9 月 28 日、サービスエリアや「道の駅」等における子育て応援の取り組み方針を発表しました。授乳やおむつ交換のためのスペースとして 24 時間利用可能な「ベビーコーナー」を 2021 年までに整備するとし、今後新設する施設では標準装備する方針を打ち出しています。

＜民間活力開発機構について＞

1987 年に創設された内閣総理大臣認可団体。産(企業)、学(有識者)、官(地方の公共団体)とコンソーシアム(事業共同体)を組成し、日本全国のまちづくりを支援する活動を展開。道の駅を地域の防災拠点とした「災害時支援事業研究会」を立ち上げ、「道の駅」を災害時の支援拠点として活用することについて考えるシンポジウムなども開催。

＜江崎グリコ株式会社について＞

「おいしさ与健康」を企業理念に、「子どものココロとカラダの健やかな成長」に寄与する商品を、創業以来、数多く世に送り出す。2018 年 8 月、厚生労働省及び消費者庁の制度改正により、乳児用液体ミルクの製造・販売が解禁となり、2019 年 3 月 5 日、日本で初となる乳児用液体ミルク「アイクレオ赤ちゃんミルク」を発売。開発に 2 年を費やし、母乳を目指し成分ひとつひとつと原料にこだわった繊細な赤ちゃんの体にやさしく母乳に近い栄養成分のミルクの開発に成功。

＜Trim 株式会社について＞

完全個室の可動式ベビーケアルーム「mamaro」の企画開発・販売を行う IT 企業。「mamaro」は、畳一畳分ほどのスペースがあれば設置でき、鍵がかかるため授乳やおむつ替えなどのベビーケアを安心して行うことができます。内部のセンサーにより不正利用を検知でき、アラートメール機能が標準装備のため、設置施設でもセキュリティ面の心配なく導入可能。同社が運営する授乳室・おむつ交換台検索アプリ「Babymap」との連携により「mamaro」の設置場所や空き状況を調べることができます。